

# 漢字語の意味理解能力を測る

—漢字力測定試験開発の試み—

岸田理恵・塩崎紀子  
春名万紀子・文野峯子

キーワード

漢字力 意味理解能力 試験形式の簡便さ 学習意欲

## 1. はじめに

日本語教育において、初級レベルでは聞く・話すことに重点が置かれる傾向にあるが、中級に進むと、一般的に読むことの比重が増してくる。日本語で書かれたものを読む行為は漢字の理解抜きには考えられない。従って、特に非漢字圏の日本語学習者に対する中級以降の読解指導においては、教師は、学習者が漢字についてどれくらいの知識を持っているかを知ることが必要になってくる。どのような読解教材を与えるのか、どのような指導法が適切なのか、あるいは、どのレベルの読解クラスが適当なのかなどを決定する際の目安となる項目はいろいろあるが、その一つが、その学習者の漢字力であると言えよう。ここでいう「漢字力」とは、従来の漢字教育が目標としている正確な読み書き能力とは異なり、語彙としての漢字の意味を理解する能力を指す。正しくは読めないし、書けないという場合でも、意味がわかれば、それは読解において活用される能力であると考えられる。私たちは、読解指導を始める際に学習者のそのような「漢字力」を把握することの有用性を重要視し、正確さを測る試験とは異なる漢

字試験の開発を試みた。また、試験の形式的な面では、評価する者にとっても、される者にとっても時間的、労力的、かつ心理的に負担の少ない方法で測れるものを第一の目標として、開発をすすめた。以下は、その報告である。

## 2. 何を測定するのか

### 2.1. 「漢字力」とは何か

漢字は、音・形・意味の3つの要素からなっている。従って、漢字の能力を測ると言っても、この3つのどれに関する能力を測るのかで自ずと方法が違ってくる。従来、よく行われてきた形式に「漢字に読み仮名をふる」、「仮名を漢字にする」というものがある。前者は「音」、後者は「形」に関する知識が主として測られる対象となる。文中で提示された仮名を漢字にする場合は、複数の同音異義字 / 語の中から適切なものを選ばなければならないのであるから、意味の認識が前提になっていることは言うまでもない。また、「大家」や「市場」のように同じ漢字で表される語が意味の違いによって「音」が異なる場合もあるから、「読み仮名をふる」形式のテストも意味の認識とは無関係ではない。しかし、前述の形式のテストでは「音」と「形」を正確に表記できなければ、得点につながらない。意味はわかるが、正確な「音」がわからない場合、あるいは、似て異なる漢字を書いた場合は得点にはならないのである。従って、この形式の試験は、「音」と「形」の正確な知識が結果に直結しており、「意味」の理解力を測ることに重点がおかれているわけではない。

日本語母語話者である私たちは、日本語の文章を読んでいる際に「音」、即ち、読み方には自信が持てないが、意味は理解できる漢字語(単数または複数の漢字を用いて表記される語)に出くわした経験が幾度となくあるであろう。漢字の意味理解が「音」を経由することを必要としているのかどうかは、明白ではないが、不正確な音韻符号化であっても、意味認識ができることは事実であろう。

海保(1984)や橋元(1998)は、漢字で書かれた語彙の情報処理は仮名の場合と違って、形態的認知から音韻符号化を経由せず直接、意味に到達する意味符号化がなされている可能性が大きいと指摘している。また、読める、あるいは意味理解ができる漢字と正確に書ける漢字の数が一致しないことも一般的なのではないだろうか。玉岡(1998)は、ある漢字が読めても書けないということが起こるのは、「正しい漢字であると判断して発音することと、発音を聞いて正しい漢字を書くことが、異なる認知処理を要求しているからである」(p. 44)と言っている。更に、私たちは、複数の漢字で構成される知らない漢字語があった場合、それぞれの単漢字の意味と文脈から、その漢字語の意味を類推する作業を行うのが普通である。つまり、私たちが日本語で書かれた文章の内容を読みとるために活用している「漢字力」は、漢字の「音」、あるいは、「形」が正確に生成できる能力とは必ずしも一致していないのである。非漢字圏の日本語学習者が漢字に対して日本語母語話者と全く同じ情報処理をしているとは言えないだろうが、彼らも漢字語の正確な「音」の生成ができなくても、意味理解は可能であり、意味の類推も行っていると考えることには無理がないように思われる。「形」や「音」の正確さが求められるあまり、これまでは積極的に測られることのなかった学習者の「漢字力」に注目し、これを測定しようというのが試験開発の目的である。

## 2.2. 「漢字力」測定試験の作成にあたって

試験という形をとって、何かを評価する場合、測定が簡便にできるということは、評価する側にとっても、評価される側にとっても利点が多い。試験は、まず、短時間で多くのことが測れるものが望ましい。所要時間が短ければ、受験者の疲れによる信頼度の低下を防ぐことができる。次に、評価者にとっては、短時間で採点ができることが望ましい。組分け試験のように、多くの受験者の評価を短時間のうちに出さなければならない場合などは、この点が特に大切になってくる。また、教育効果の観点から

考えると、学習者が試験の結果に落胆し、漢字ストレスを助長するようなことのないように配慮することは非常に重要である。学習者の漢字アレルギーとも言える苦手意識や過剰な漢字偏重意識は評価のされ方とも関係しているのではないだろうか。漢字の読み書きの「正確さ」に主眼を置いて評価する試験がその厳密さのあまり学習意欲をそぐ場合があることは否めない。その点、意味理解ができていのかどうかを評価する試験は曖昧でも「知っている」ということを積極的に評価できるという点で、受験者に与えるストレスは小さいと考えられる。さらに、正誤問題や多肢選択のような形式の簡便さは、受験者の心理的負担を軽減する要素の一つとなるように思われる。気楽な気持ちで臨める試験は、学習者に過度の緊張を強いることもなく、やってみようというチャレンジ精神を刺激すると考えられる。以上の点を重視して、今回の試験は、1. 漢字語の意味理解の能力を測る試験であること、2. できるだけ多くの漢字語を網羅すること、3. 解答に時間がかからないこと、4. 採点が簡単なこと、5. 初中級・中級の学習者を対象としていること、などの要件を満たすことを開発の目標とした。形式は、6つの漢字語を3つの英語の単語とマッチングする多肢選択形式にし、3級レベルと2級レベルの2種類の試験を作成した。(表1参照)

表1 3級漢字試験、及び、2級漢字試験の一部

3級漢字試験	
Choose the appropriate kanji word to go with each English equivalent. Write the number of that kanji word next to its English equivalent.	
ex. 1 田 ( ) ten	2 1 言う ( ) sing
2 丸 ( ) eye	2 会う ( ) say
3 山 ( ) tree	3 使う ( ) buy
4 目	4 歌う
5 十	5 買う
6 木	6 思う
1 1 関く ( ) arrive	3 1 売る ( ) send
2 開く ( ) open	2 送る ( ) run
3 着く ( ) write	3 走る ( ) pass
4 動く	4 知る
5 歩く	5 帰る
6 書く	6 通る

- 4 1 持つ ( ) lend  
 2 待つ ( ) wait  
 3 貸す ( ) live  
 4 住む  
 5 飲む  
 6 読む
- 5 1 集める ( ) collect  
 2 生まれる ( ) consider  
 3 起きる ( ) get up  
 4 見つける  
 5 考える  
 6 足りる
- 6 1 近い ( ) black  
 2 広い ( ) bad  
 3 悪い ( ) many/much  
 4 多い  
 5 黒い  
 6 長い
- 7 1 海 ( ) town  
 2 姉 ( ) station  
 3 紙 ( ) elder sister  
 4 駅  
 5 町  
 6 何
- 8 1 百 ( ) taste  
 2 前 ( ) sky  
 3 味 ( ) south  
 4 南  
 5 空  
 6 犬
- 9 1 魚 ( ) body  
 2 水 ( ) foot  
 3 外 ( ) fish  
 4 体  
 5 足  
 6 家
- 10 1 男 ( ) power  
 2 万 ( ) man  
 3 右 ( ) right  
 4 東  
 5 力  
 6 私
- 11 1 服 ( ) friend  
 2 友 ( ) heart  
 3 心 ( ) clothes  
 4 弟  
 5 川  
 6 雨

- 12 1 今週 ( ) composition  
 2 来年 ( ) this week  
 3 毎朝 ( ) every morning  
 4 出口  
 5 作文  
 6 上着
- 13 1 医学 ( ) medical science  
 2 急行 ( ) salesclerk  
 3 電話 ( ) telephone  
 4 動物  
 5 校長  
 6 店員
- 14 1 運転手 ( ) embassy  
 2 自動車 ( ) automobile  
 3 食料品 ( ) foods  
 4 大使館  
 5 高校生  
 6 新聞社
- 15 1 病院 ( ) hospital  
 2 名前 ( ) letter  
 3 手紙 ( ) job  
 4 学校  
 5 牛肉  
 6 仕事
- 16 1 中止 ( ) dead person  
 2 借金 ( ) underground  
 3 死者 ( ) debt  
 4 休日  
 5 地下  
 6 知人
- 17 1 見物 ( ) florist  
 2 教室 ( ) classroom  
 3 出発 ( ) departure  
 4 体重  
 5 入学  
 6 花屋
- 18 1 強風 ( ) early spring  
 2 小鳥 ( ) correct answer  
 3 早春 ( ) strong wind  
 4 古本  
 5 新品  
 6 正答
- 19 1 歩道 ( ) calligraphy  
 2 通学 ( ) midsummer  
 3 火事 ( ) sidewalk  
 4 習字  
 5 真夏  
 6 手話

20	1 家族 ( ) family	24	1 音楽 ( ) rooftop
	2 社会 ( ) photograph		2 工業 ( ) music
	3 切手 ( ) early evening		3 先生 ( ) industry
	4 写真		4 茶色
	5 食堂		5 屋上
	6 夕方		6 問題
21	1 旅行 ( ) building	25	1 安心 ( ) movie
	2 勉強 ( ) travel		2 試験 ( ) examination
	3 正月 ( ) world		3 用意 ( ) feeling
	4 世界		4 映画
	5 建物		5 気分
	6 料理		6 注意
22	1 西洋 ( ) the West	26	1 午後 ( ) research
	2 外国 ( ) meeting place		2 英語 ( ) afternoon
	3 昼間 ( ) president of a company		3 意見 ( ) opinion
	4 社長		4 半分
	5 夜中		5 研究
	6 会場		6 銀行
23	1 意味 ( ) clock	27	1 上手な ( ) kind
	2 漢字 ( ) map		2 親切な ( ) special
	3 時計 ( ) question		3 有名な ( ) important
	4 地図		4 特別な
	5 質問		5 大事な
	6 電気		6 元氣な

### 2級漢字試験

Choose the appropriate kanji word to go with each English equivalent.

Write the number of that kanji word next to its English equivalent.

ex.	1 田 ( ) ten	3	1 肩 ( ) back
	2 九 ( ) eye		2 涙 ( ) belly/stomach
	3 山 ( ) tree		3 髪 ( ) hair
	4 目		4 腕
	5 十		5 腹
	6 木		6 背
1	1 二億 ( ) two times	4	1 愛 ( ) dream
	2 二枚 ( ) two years old		2 船 ( ) love
	3 二冊 ( ) two hundred million		3 夢 ( ) back/reverse
	4 二倍		4 葉
	5 二秒		5 裏
	6 二歳		6 横
2	1 悲しい ( ) poor	5	1 与える ( ) to ring
	2 貧しい ( ) thick/dark		2 進む ( ) to give
	3 珍しい ( ) rare/uncommon		3 落ちる ( ) to advance
	4 濃い		4 悩む
	5 軽い		5 抱く
	6 薄い		6 鳴る

6	1 預ける ( ) to continue	9	1 再婚 ( ) work
	2 届ける ( ) to live		2 勤務 ( ) second marriage
	3 統ける ( ) to employ		3 退職 ( ) old age
	4 暮らす		4 柔軟
	5 雇う		5 逆流
	6 怒る		6 老齢
7	1 低気圧 ( ) mechanization	10	1 平等 ( ) direct
	2 機械化 ( ) blood type		2 危険 ( ) danger
	3 血液型 ( ) positive		3 必要 ( ) necessary
	4 週刊誌		4 直接
	5 積極的		5 可能
	6 入場券		6 失礼
8	1 冷蔵庫 ( ) post office	11	1 支配 ( ) control
	2 領収書 ( ) fire station		2 混乱 ( ) inspection
	3 美容院 ( ) refrigerator		3 検査 ( ) trust
	4 消防署		4 賛成
	5 郵便局		5 信頼
	6 遊園地		6 否定

以下省略

2級漢字試験の出題漢字語数等については、本文3.2章を参照のこと。

### 3. 試験の形式

#### 3.1. 試験形式決定の経緯

試験作成作業の際、まず課題となったのは、1. どのような基準でどのような漢字を選択するか、2. どのような形式の試験にするかという点であった。前者は次章で詳細を述べることにし、ここでは「6つの漢字語と3つの英単語のマッチング」形式を採用した経緯を説明したい。

漢字の意味がわかるかどうかを筆記試験で調べる方法には、いくつかの形式<sup>※</sup>が考えられ、実際に施行されているが、今回の試験では、その中から、複数の漢字語と複数の選択肢のマッチング形式を選ぶことにした。この形式を選択する際に参考にしたのが、I.S.P. Nation (1990年)の語彙テストであった。Nationの開発した英語語彙テストは、6つの英単語と3つの英語の定義のマッチング形式によるものである。Nationはこの形式の主な利点を次のように説明している(p. 261)。1. 短時間に多くの語を対象に試験ができる、2. あてずっぽうの正解率が少ない、3. 採点が簡単である、4. その単語について学習者が持つ知識が最大限活用できる(その

単語の意味を確実に記憶していなくても、選択肢として与えられた定義がヒントとなり、その語の意味を思い出すことができる)、5. 問題として与えられている多くのことばの意味を考えたりする学習活動が行えるという5点である。

この形式を採用するには、他の多肢選択形式の試験と同様、選択肢を目標言語(今回の場合日本語)で与えるか否かを検討する必要があった。Nation のテストでは、英語の出題単語に対し英語の選択肢を用いており、選択肢には出題単語より1つ下のレベルのことばを与えている。例えば、debt という出題語に対し、選択肢は something you have to pay という定義となっているのだが、Nation 自身は「意味の理解 (recognition) 力を調べるには母語の選択肢が最適である」(p. 81) と言明している。私たちは、この Nation の考えを踏襲し、かつ、以下の点から選択肢は英語とした。それは、1. 選択肢を日本語とした場合、選択肢で用いる日本語のことばが未習であるため、漢字の意味はわかるのに正解できない可能性がある、2. 選択肢を簡単な日本語で書くことには出題側に困難が伴う、3. 今回の試験が対象とする早稲田大学国際部の学生は、英語を母語または共通語としているなどの理由からである。また、選択肢の英訳の適否については、作成時点でネイティブチェックを受けた。

### 3. 2. 多肢選択形式による試験の問題点

これまでに指摘されている多肢選択形式試験の主な問題点は、試験の妥当性に関するもの、すなわち、この試験によって本当に受験者の漢字語の意味理解能力が測定されるのか、という点であろう。Nation も多肢選択形式のテストは、うまくいけば非常に効果的であるが、語彙テストの場合は出題の単語をかえただけで得点がかなり変わってくると指摘している (p. 82)。この点の対応策として、Nation は、同じセクションの6つのことばの品詞を揃えて意味理解能力以外の事柄がヒントとなる可能性を低くすること、また、同じセクションに意味の類似したことばを選択肢として

入れないようにして不注意な間違いを防ぐなど、作成の際に試験の目的に外れる要素が入り込まないように十全な配慮をすることを求めている。私たちはこの指摘を指標に検討と討議を重ね、試験の作成を進めた。

#### 4. 試験作成の方法

前章で検討した事項に基づき、初中級用と中上級用の2種類の試験を作成した。国際交流基金、(財)日本国際教育協会編『日本語能力試験出題基準』(1994年)を資料として、初中級用はその3級出題基準の漢字245字を、中上級用は2級出題基準の漢字1000字を出題範囲の拠り所とした。以下は3級漢字語の意味理解能力試験作成の具体的な方法である。

##### 4.1. 3級漢字語意味理解能力試験の作成方法

###### 4.1.1. 出題可能漢字語のリスト作成

試験作成にあたって、まずはじめに出題可能な漢字語を収集したリストを作成する必要があり、それを網羅的にリストアップするため、以下の①、②の作業を行った。

###### ① 3級漢字と3級語彙の照合と分類

まず、3級出題基準の漢字表にある245字が、3級語彙の中でどのように使われているかを洗い出し、品詞別に分類することにした。これは初級教科書における3級漢字の使われ方を踏まえて試験作成をすることと、出題可能漢字語の綿密な検討作業をするため、作業の仕分けをすることが目的であった。

『日本語能力試験出題基準』における3級の文字、語彙は「外国人日本語能力試験」の「認定基準」に基づき、いわゆる初級課程修了時における文字及び語彙の学習到達度の目安を「3級」として示すものである。この「出題基準」を定める資料として使用されたのは、文化庁編『国内の日本語教育機関の概要』(1987年)と国際交流基金編『世界各地の日本語教育機関の概要』(1988年)によって国内外での使用機関数が多い順に選定し

た11種の初級教科書である。語彙の調査は対象資料とした11種の教科書について行われており、級の認定を行うにあたっては他の日本語教育に関する2種の語彙調査を参考に、3級では1500語を提示している。

一方、文字(漢字)については、11種類の教科書のうちから漢字を300字~400字程度提出している4種の教科書を調査対象資料として選び、その教科書の何課に初めてその漢字が提出されているかを調査集計した結果に基づいて3級の文字の認定を行っている。要するに、語彙の選定基準と漢字の選定基準は異なっているのである。従って、245字の漢字が初級教科書ではどう読まれ、どういう意味で使われているかは、この音読みアイウエオ順配列の3級漢字表からはわからない。言い換えれば、どの3級語彙が漢字で表記できるのかも、漢字表と語彙表を見るだけではわからないのである。そのため、作業の開始にあたって、3級漢字を3級語彙と照合し、初級課程修了者の既習語彙中の漢字としてはどう使われているかを調査する必要があった。

3級漢字と3級語彙との照合の結果、漢字は初級教科書の中で3通りの使われ方をしている事がわかった。一つめのグループは、一つの漢字が一つの語彙としてのみ使用されているもので、例えば「悪」のように、初級教科書では「悪い」の形だけが提出されており、「悪~」、「~悪」などの複数の漢字で構成される漢字語としては提出されないもの。二つめは、複数の漢字で構成される漢字語の中でのみ使用される漢字のグループで、例えば「映」のように、「映画」と「映画館」の形では使われるが、「映す」は提出されていないというようなもの。三つめのグループは単数漢字の漢字語、複数漢字の漢字語の双方に使用されているもので、例えば「強」のように、「強い」と「勉強」の両方が提出されているといったものである。

以上を踏まえ、3級漢字表の245字を3級語彙の読みと意味の範囲で品詞別に、また単数の漢字による漢字語か、複数の漢字による漢字語かの別で分類すると、以下の分類リストが出来あがった。a. 名詞・単数漢字語、b. 名詞・複数漢字語、c. 動詞・単数漢字語、d. 動詞・複数漢字語、e.

形容詞・単数漢字語, f. 形容詞・複数漢字語の6種類である。

次に、3級漢字表の漢字を3級語彙と照合した上で、下の例のように、各分類リストに振り分ける作業をした。

分類	3級漢字	3級語彙
a. 名詞・単数漢字語	海	海
b. 名詞・複数漢字語	病	病気, 病院
c. 動詞・単数漢字語	開	開く
d. 動詞・複数漢字語	研	研究する
e. 形容詞・単数漢字語	近	近い
f. 形容詞・複数漢字語	元	元気な

## ② 未提出類推可能漢字語の検討

上記の作業を終えた段階でリストに載せられた3級漢字は3級語彙範囲での読みと意味を持つ単数及び複数の漢字からなる漢字語である。しかし、3級漢字にありながら、3級語彙にない読み、意味であっても、意味の類推が容易な語彙がある。これも出題可能漢字語として、分類リストに加えることにした。例えば、3級漢字表にある「牛」は「うし」としては3級語彙表になく、語彙としては「牛肉」と「牛乳」の2語が提出されている。だが、「牛肉」と「牛乳」を学習していれば、漢字の「牛」の意味を推測することは容易である。このような例を未提出類推可能漢字語として、新たにリストに加えることにした。また、例えば、漢字表に「帰」と「国」はあるが、語彙表に「帰国」はない。3級語彙としては「帰る」と「国」が提出されている。これらの語彙を学習していれば、「帰国」の意味の認識は容易であると判断し、こういった例も未提出類推可能漢字語としてリストに含めた。一方、「読書」のような3級漢字表にある「読」と「書」を合わせた漢字語を出題可能漢字語に加えることはできない。なぜなら「読む」と「書く」が既習語彙であっても、「読書」の意味を正しく類推することは容易ではないからである。さらに3級漢字の「真」と「空」を組み合わせた「真空」などは、3級語彙表にある「写真」「空」

「空気」からは、どう推測しても正しく意味を認識することは不可能である。このような類推不可能な漢字語はリストに入れないように注意した。

その結果、最初にリストアップされた漢字語に加え、新たに未提出類推可能漢字語が含まれたリストが完成した。

#### 4.1.2. 3級漢字語意味理解能力試験の出題漢字語の選定

前節の作業によって、最終的に約700の漢字語がリストアップされた。このリストをもとに、短時間で3級漢字の意味理解能力を測定するための試験の出題漢字語の選定をすることにした。

出題漢字語の選定にあたり、異なり漢字数を3級漢字表の総字数245字に近づけること、重なり漢字は極力少なくすることを目標に、リストから出題不要なものを削除していくことにした。そのため、まず次のような条件を設定し、選定を行った。

① 同一漢字の意味的な重複使用を避ける

例「飲む」を出題したら「飲み物」は出題しない

「着く」と「上着」は共に出題するが、「着る」は出題しない

② 類概念と考えられる漢字は出題の重複を避ける

例「夏」を出題したら「春」「秋」「冬」は出題しない

「午前」を出題したら「午後」は出題しない

③ 接頭辞、接尾辞の出題は重複を避ける

例「今週」を出題したら「今年」は出題しない

最終的には、本試験開発メンバーである5名の教師が、3級レベルにおける出題漢字及び漢字語としての適格性を1語1語検討し討議を重ねて、より優先度の高いものから出題語を決定していった。

この結果、選定された出題漢字の延べ漢字数は258字、うち異なり漢字数は211字、重なり漢字数は47字となった。また、出題漢字語としては、3級語彙の143語に、未提出類推可能漢字語19語を加えた162語が対象となった。

#### 4.1.3. 出題漢字語の配列と特徴

試験の形式は、前章でも述べたように6語を1問とし、そのうち3語に英訳を付け、これを解答の選択肢とする多肢選択形式で、27問を作成した。問題の配列で配慮したことは、Nationの指摘を踏まえ、品詞別にすること、漢字語の漢字が単数か複数かを区別すること、活用語は送りがなの語末が同形のものを選べることなどである。

出題語彙の162語の中には、次のような未提出類推可能漢字語が19語含まれている。これらは漢字語の意味を類推する力を測る試験問題も必要と考え、選んだものである。

中止、休日、知人、体重、言本、新品、進学、手話、昼間、夜中、借金、死者、地下、強風、早春、正答、歩道、習字、真夏

#### 4.2. 2級漢字語意味理解能力試験作成の方法

2級試験問題も3級試験とはほぼ同様の方法で作成した。2級漢字1000字の中には3級漢字245字が含まれており、2級新出漢字は755字である。試験作成の際は、出題漢字は全2級漢字の1000字のうちから延べ510字を選んだが、そのうち、異なり2級漢字数は438字であり、重なり漢字数は29字、3級漢字からの出題数は53字となった。出題語彙は2級語彙表からの251語と以下の15語の未提出類推可能語を含む266語となった。

低気圧、機械化、血液型、週刊誌、入場券、領収書、美容院、再婚、勤務、退職、柔軟、逆流、老齡、欧州

試験作成に際しては、できるだけ多くの2級新出漢字を用いながら、2級レベルに相応しい漢字語を選出することを基本方針としたが、多くの2級語彙が2級漢字と3級漢字の組み合わせで構成されているため、2級漢字のみで試験問題を作成することは困難であった。

## 5. 試験の実施と今後の課題

作成した試験を用いた何回かのプレテストの結果、受験者の反応と意見を参考に、出題語と英訳に各1語変更を加え、最終的な試験問題を決定した。試験は、これまでに早稲田大学国際部の1997年度から1999年度の各年度の組み分け試験において使用されたほか、隣接するレベル間の漢字力測定や個々の学習者の漢字に対する意味理解能力の変化を調べる際などにも使われている。3級試験の所要時間は概ね10分から15分、2級試験でも20分前後であった。受験者からは、解答方法が簡単な点と短時間にできる点が好意的に受け止められているようであった。また、到達度を測るため自分から再試験を希望したり、2級漢字の試験にも挑戦しようとする学習者も現れた。この点では、試験作成の当初の目的がある程度達成されたのではないかと考えている。しかし、英語を母語としない受験者からは英訳の意味について試験中に尋ねられることもあった。いくつかの訳を用意することを現在検討中である。

第1章で述べたように、私たちは、非漢字圏学習者の「漢字力」を積極的に評価し、その育成を援護するような試験の開発を今回試みた。今後は、この方向を漢字教育の柱の一つとして日常的な学習の場にも取り込んでいきたいと考えている。

### 注

漢字意味理解能力試験の諸形式について

試験形式のタイプは次のようなものがある。

タイプ1. 解答を書き入れる形式

タイプ2. 答を選択肢から選ぶ形式(多肢選択形式)

2-1. 文脈があるもの

例: 雪が降る日は( )です。a. 暑い b. 寒い c. 暖かい

2-2. 文脈がなく、単語のみを問うもの

① 1つの漢字語につき、複数の選択肢が与えられるもの

② 複数の漢字語と複数の選択肢のマッチング形式

私たちが採用したのは、2-2 ②の形式である。以下に、それ以外の形式を採用しなかった理由を挙げる。

タイプ1の解答を書き入れる形式

- 1) 記述する作業は、解答に時間がかかる。
- 2) 意味理解以外の能力(正確な記述能力など)が測定の対象となる危険性がある。
- 3) 解答が複数になる可能性があり、採点者間に測定差が出る。

タイプ2-1の文脈があるもの

- 1) 文を読む作業は時間がかかり、受験者にとって負担である。
- 2) 漢字の意味理解以外の能力(たとえば読解能力)が得点に反映される。

タイプ2-2①の形式

- 1つの漢字語につき複数の選択肢を考えなければならず、試験の精度が下がる。

#### 参考文献

海保博之「人間は漢字をどう処理しているか—漢字の心理学—」海保博之編『漢字を科学する』有斐閣 1984年

玉岡賀津雄「漢字の認知処理における意味・書字・音韻的表象の構造と相互作用」『平成10年度日本語教育学会秋季大会予稿集』日本語教育学会 1998年

橋元良明「音読と黙読」『言語』Vol.27, No.2 大修館 1998年

I.S.P. Nation, *Teaching and Learning Vocabulary*, Newbury House Publishers, New York, 1990

加納千恵子「漢字教育の動向」『言語』Vol.28, No.4 大修館 1999年

#### 附記

本試験は、国際部日本語非常勤講師の5名が開発の必要性を確認し、定期的に検討と作成作業を重ねる中から生まれたものである。作成には本稿執筆者と大塚純子氏が携わった。大塚氏が退職したため、本稿は4名の執筆となったが、試験は5名の協同作業の結果であることは言うまでもない。本稿の内容については、執筆者が等しく責任を負っている。